

むさしの園秋の音楽交流会

教育課程上の位置付 特別活動

実施概要

この施設は、これまでも慰問をしていた施設ですが、今回の音楽交流では音楽部の生徒7名が利用者と直接的なふれあいをこれまでより多く取り入れて活動しました。活動は、施設のホールで行いました。プログラムは、生徒による「さんぽ」、「明日があるさ」、「花は咲く」の3曲の歌唱・器楽発表、音楽の途中に生徒の指示に合わせて利用者が自分の持つ楽器を鳴らして楽しむ交流演奏「虫の声」、利用者との交流演奏「しあわせなら手をたたこう」、生徒による「365日の紙飛行機」の歌唱発表、その後、生徒と利用者全員で「もみじ」「上を向いて歩こう」「ふるさと」の3曲を合唱しました。

- 活動参加者** 当校 生徒…7人 担当教員…5人
- 内訳** 交流先 利用者…75人 担当職員…8人
- 交通手段** 当校とむさしの園との距離はおよそ100m 徒歩で訪問 約5分



大勢の利用者が歌を楽しみに集まりました

活動報告 実施日：10月28日(土)

音楽部の生徒による利用者との音楽交流会は、代表生徒の挨拶の後、生徒の歌唱発表から始まりました。生徒が振りをつけて歌うと、利用者から、曲に合わせて、明るい掛け声が上がりました。また、トーンチャイムの演奏を付けた「花は咲く」では、利用者が美しい音色を聴きながら、一緒に口ずさむ様子が見られました。

次の交流演奏では、カスタネットや鈴、鳴子などの楽器を、生徒が利用者一人一人に手渡し、利用者の中に入って、一緒に「虫の声」を演奏しました。曲に登場する虫に合わせて楽器を決め、生徒の一人が楽器が書いてあるプラカードを掲げると、その虫に対応する楽器を持つ利用者や生徒がその楽器を鳴らして一緒に楽しみました。続く「しあわせなら手をたたこう」でも、一緒に体を動かし、一体感が広がりました。

終盤の3曲は、利用者に親しみのある曲で、全員で斉唱しました。

生徒の「終わりの言葉」の後、参加した生徒一人一人が利用者にお礼を伝えて言葉を交わしたり、握手をしたりする姿が見られ、利用者も生徒も、笑顔で満足そうな表情にあふれていました。

当日のスケジュール

- 14:00 学校、施設、SSC、都教委と4者事前打合せ(会議室)
- 14:15 生徒引率教員と施設に到着。1階「ホール」で活動準備
- 14:30 開会、入場BGM「青い山脈」、始まりの挨拶(生徒)
歌唱発表「さんぽ」、「明日があるさ」、「花は咲く」トーンチャイム演奏付き
交流演奏「虫の声」、施設利用者全員に楽器配布、歌と楽器身体表現・交流演奏「しあわせなら手をたたこう」
歌唱発表「365日の紙飛行機」楽器回収
全員で歌唱「もみじ」「上を向いて歩こう」「ふるさと」
- 15:10 閉会、終わりの言葉(生徒)
- 15:25 引率教員と生徒は施設を出発、学校

■活動のために準備したもの

- (作成物) ● プログラム、歌詞カード(配布用) ● 歌詞カード(掲示用) ● 楽器プラカード ● 楽器名前シール(生徒支援)
- (準備物) ● CD ● 譜面台 ● 楽器用カゴ ● 歌詞ファイル ● 司会原稿

■工夫したところ

- 楽器を生徒から手渡しする、近くで一緒に演奏する、握手をして挨拶をする等、むさしの園の方と生徒たちが直接関われる場面を複数設定しました。
- 生徒主体で交流会を進められるようにしました。

■実施にあたって注意したところ

- 曲目を、全員で楽しめるものにしました。
- シンプルでわかりやすく、むさしの園の方々が取り組みやすい演奏活動を考えました。
- 配布物や掲示物の文字サイズを見やすいものにしました。

■良かったと思うところ

- むさしの園の方に、生徒との会話や演奏を楽しんでいただけました。
- 緊張していた生徒も、積極的に関わろうとしている姿が見られました。

■今後に向けての学校からの抱負

- 今後もこれまで築いてきた関係を大切にし、交流を続けていきたいと思えます。
- 交流会の時期や回数に関しては、むさしの園の方と相談をしながら検討したいと思います。
- 今回を機に、直接的な交流活動を積極的に取り入れていきたいと思えます。

当校は、昭和48年に開校した小学部・中学部・高等部を設置する知的障害特別支援学校です。通学区域は6市2町で広範囲のため、児童・生徒は公共交通機関やスクールバスを利用して通っています。社会貢献活動としては、高等部では作業学習を通じて公共施設の清掃や、部活動においては音楽部で施設への慰問や、地域の祭りへの参加等を行っています。

活動の感想

生徒・教員の感想

- 生徒**
 - 楽器プラカードを使って楽しんでいただいたのでとても良い思い出を作ることができました。握手をした時に「手がとても暖かいね」と言われてとてもうれしかったです。
 - 利用者の皆様との楽しい時間が過ごせてよかったです。泣いていた方もいて、交流会をして良かったです。いっしょに歌って楽しかったです。
 - おじいちゃんおばあちゃんたちの前で歌うのは、今年初めてですごく緊張しました。歌い終わった後、おばあちゃんたちに「歌がお上手だ」と褒められました。
- 教員**
 - 生徒たちの緊張が、会が進むにつれて徐々に和らいでいくことが分かりました。練習をしている時は、人前で発表することにあまり気が進まなかった生徒も、利用者の方々の笑顔や歌声に励まされ、積極的に関わろうとする姿が見られました。職員の皆様にも一緒に盛り上げていただき、充実した楽しい会になりました。ありがとうございました。

施設の参加利用者・担当者の感想

- 利用者**
 - 若い人たちが来てくれて、元気な声で、感激して泣いてしまいました。
 - とてもすてきで立派でした。歌に合わせて、鈴やタンバリンを鳴らすのが楽しかったです。
 - 今日のはよかったです。夫婦で聞かせてもらいました。こういうことはいいことだなあ、と二人で話していました。
 - 皆さん、きれいな声で、歌が素晴らしいと思います。また、こういう機会があったら、聞かせていただきたいと思います。
- 教育企画室担当主任**
 - 羽村特別支援学校の皆様とは、2003年から毎年交流の機会をいただき、もう約15年間も継続していることを、大変感謝しております。当施設のご入居者の皆様は、今回もとても楽しみにされておりました。当日も、ご入居者の皆様のご存知の歌を多数ご用意くださり、生徒さんや先生方が元気な声で進行をしてくださったことで、とても楽しく、活気のある交流会となりました。また、生徒さんたちの一生懸命で素晴らしい歌声や演奏に、涙を流して喜ばれているご入居者の方もいらっしゃいました。今後も継続して交流の機会をいただければ幸いです。

■実施までの経過 ※(コ)：コーディネーター

- 8月4日 (コ)、学校を訪問。副校長、担当教員と打合せ
- 9月19日 担当教員と(コ)が施設を訪問。当事業を教育企画担当に説明。教育企画担当快諾
施設利用者の状況確認。実施場所の確認



プラカードの楽器の音が、その虫の音です



一緒にタンバリンを鳴らしましょう

交流先



社会福祉法人 園盛会
特別養護老人ホーム
多摩の里 むさしの園

住 所：東京都羽村市五ノ神362番地

■施設概要

- 特別養護老人ホーム定員 168名
- ショートステイ定員 3名
- デイサービスセンター 12名